

UICC日本委員会
Japan National Committee for UICC

ニュースレター

事務局 公益財団法人がん研究会 がん研究所
〒135-8550 東京都江東区有明3-8-31
Tel: 03-3570-0542 Fax: 03-3570-0546

July, 2023

uiccjapan@jfcf.or.jp

No.

28

ごあいさつ

UICC日本委員会委員長

野田 哲生



この度、UICC日本委員会ニュースレターNo.28を発行することとなりましたので、一言ご挨拶申し上げます。

ここ数年、全世界で猛威を振るってきた新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、収束の兆しもやや見えつつありますが、医療の現場などでは依然として予断を許さない状況が続いております。UICC日本委員会（以下、当委員会）の活動も引き続き、多くの制限を受けることとなりましたが、そのような困難な状況下においても多くの方々からのご支援・ご協力を頂きながら活動を行って参りました。

その中でも当委員会に於ける一大イベントでもあります毎年2月4日のワールドキャンサーデーイベントですが、今年2023年の2月4日（土）はライトアップイベントやライブセッションを開催致しました。

今年はUICC本部が定めた3年間のキャンペーン「Close the Care Gap!」（がん医療のギャップを埋めよう）の2年目となります。UICCは、がん治療における公平性が損なわれている現状を認識し、医療へのアクセスにおいて多くの人々に存在する障壁とこれらの障壁がどのような影響を社会に与えているのかを改めて捉え直すことを目指しています。

当委員会では、今年もコロナ禍ということもあり、がん研究会の吉田富三記念講堂を本部（配信基地局）とし、ゲストに女優・大竹しのぶさんをお招きして、オンライン配信によるライトアップ点灯式「ライトアップ ザワールド Close the care gap-未来にひかりをつなぐ」を開催し、併せてオンデマンド配信によるワールドキャンサーデーセッション（協賛セッション1テーマ、メンバー組織主催セッション9テーマ）を実施致しました。

ライトアップ実施に当たりましては、当委員会メンバーや有志の皆様から手を挙げて頂き、今年も全国で計15か所のライトアップを実現することができました。

前年に引き続き、今回も特設サイト（URL <https://worldcancerday.jp/>）を活用する他、FacebookやTwitterなどSNSを用いたキャンペーンも展開しました。特設サイト内ではYouTube動画による点灯式のライブ配信、オンデマンドによるワールドキャンサーデーセッションの公開を行うなど、盛りだくさんのコンテンツを多くの人々に視聴して頂ける環境を整備しました。



また、今回、初の試みとして、「マスク協賛」を募り、ワールドキャンサーデーオリジナルマスクの作成・配布によるキャンペーン展開を行いました。オリジナルマスク1万枚を作成し、全国のがん診療連携拠点病院など関係各所に配布し、ワールドキャンサーデーに賛同頂いた医療・研究機関や企業の方々からマスクを着用することで、がん対策に関する世論形成と機運の醸成を図ることを目指しました。

これらライトアップイベントの模様やワールドキャンサーデーセッション等は、特設サイトから現在もご覧頂けますので、是非、皆様アクセスしてみてください。

今年もコロナ禍というがん医療にとって極めて過酷で困難な状況の中ではありますが、無事にライトアップ点灯式並びにワールドキャンサーデーセッションの公開を行うことができました。これもひとえに皆様方のご支援とご協力の賜物と心より御礼申し上げます。引き続き、当委員会へのご支援とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

以上

挨拶	野田 哲生	1
ワールドキャンサーデー		3
ライトアップ ザ ワールド		6
ワールドキャンサーデーセッション		8
事前告知		10
報道・掲載		14
マスクキャンペーン		20
ワールドキャンサーデーに参加して	旭川街あかり実行委員会 有馬 準	21
遠隔術中迅速病理診断がスタートしました！		22
	新潟県立がんセンター新潟病院 川崎 隆、佐藤 信昭 新潟県立十日町病院 清崎 浩一、吉嶺 文俊	
2023 ワールドキャンサーデーに参加して	埼玉県立がんセンター 神田 浩明	24
2023年ワールドキャンサーデーに参加して	法相宗大本山薬師寺 安田 英基	25
UICCワールドキャンサーデー 2023 記念点灯式～岐阜より～		26
	岐阜大学医学部附属病院 宮崎 龍彦	
Close the Care Gap! 都会と地方のがん医療格差をなくそう... 富山経済同友会	牧田 和樹	27
World Cancer Day 2023 に参加して	国立病院機構九州がんセンター 藤 也寸志	28
ワールドキャンサーデーの日に願うこと		29
	社会医療法人博愛会 相良病院 相良 吉昭／藤迫 正幸	
アジアがんUHCの実現を目指して	アジアがんフォーラム 河原 ノリエ	31
第27回 世界がん会議（ジュネーブ開催）報告		31
UICC 日本委員会 加盟組織・役員		32

ワールドキャンサーデー

2023年2月4日(土) オンライン開催

YouTubeにてライブ配信

ライトアップ ザ ワールド 17:30~18:15 <https://worldcancerday.jp/>

ゲスト:大竹しのぶ さん

ワールドキャンサーデーは世界中の人々が、がんのためにできることを考えて行動を起こす日です。UICC日本委員会ではオンラインで、ライトアップ点灯式とワールドキャンサーデーセッションを加盟組織で共同開催いたします。

2月4日の夜空をブルーとオレンジの光に包むライトアップが、世界各地で行われます。コロナ禍で、人と人の距離を離さなければならないいま、距離を超えて、日本各地の光を繋ぎ、未来にむけてがんという病への想いをひとつにする瞬間をとともに分かち合ひましょう。

Close the care Gap メッセージ
全ての国民とがん予防、がん医療、がんとの共生を通じ、がんの克服を目指します。【加藤勝信厚生労働大臣】
UICCは、世界をつないでがんを戦います。【野田哲生UICC日本委員会委員長】

ワールドキャンサーデー・セッション

Close the care gap

当日は、UICC日本委員会加盟組織や協賛/共催企業によるワールドキャンサーデーセッションを配信します

各セッションの詳細は、ワールドキャンサーデー特設サイトをご確認ください。

特設サイトQRコード

ライトアップ点灯式 ー未来に光を繋ぐー

日本各地でライトアップの点灯式をおこない、日本国内のみならず世界にむけて、がんに立ち向かう想いを発信します。

島根

岐阜

新潟

宮城

北海道

福岡

富山

埼玉

埼玉

東京

東京

愛知

神奈川

東京

東京

佐々木研究所

相良病院

世界遺産薬師寺

世界遺産相倉合掌集落

福岡市赤煉瓦文化館

岐阜市役所

さんいん中央テレビ鉄塔

新潟日報メディアシップ

仙台スカイキャンドル

あさひかわ街あかりイルミネーション

埼玉県立がんセンター

首都圏外郭放水路

東京ビッグサイト

中部電力MIRAI TOWER

大船観音

主催 UICC 日本委員会 www.jfcr.or.jp/UICC

ワールド キャンサー デー 2023

2023年2月4日(土) オンライン開催

ワールドキャンサーデーは、2000年2月4日、パリで開催された「がんサミット」から始まったUICCの取り組みですが、世界中で人々ががんのために一緒にできることを考え、約束を取り交わし、そして行動を起こす日です。UICCは、2022年からの3年間、ワールドキャンサーデーのテーマを「Close the Care Gap!」(がん医療のギャップを埋めよう)としています。キャンペーンの最初の年であった2022年の目標は、世界中のがん治療における不平等を理解し、皆で共有することでした。そして2年目にあたる2023年は、志を同じくする人々と声を合わせて行動しようと呼びかけています。

新型コロナウイルス感染症は、世界中にさまざまな分断をもたらし、がん医療においても多くの方々が、いまま苦難の中におられると思います。そうした中で、今年もまた、このワールドキャンサーデーを迎えることとなりました。2023年2月4日(土)のワールドキャンサーデーには、日本と世界をオンラインで結ぶ「Light Up the World」を通じて、日本各地を光でつなぎ、その瞬間を分かち合うことで、この苦難の中でがんに向かう想いをひとつにしたいと思います。

UICC日本委員会では、加盟組織とともにワールドキャンサーデーの準備を始めています。各組織からは自主的にセッションの企画を出して頂き、また企業の方々からもご協力を得て、2月4日に、ワールドキャンサーデーセッションをオンラインにて開催。

プログラム: 2023年2月4日(土) ワールドキャンサーデー2023

- ① ライトアップ点灯式(オンラインライブ) 17:30~18:15
- ② ワールドキャンサーデーセッション Close the care gap(がん医療のギャップを埋める)
 - ①UICC日本委員会主催セッション(オンライン) 17:00~17:30
 - ②UICC日本委員会メンバー組織主催セッション(オンライン) 18:20~

協賛くださった企業・団体様

セッション協賛

- 一般社団法人がん医療の今を共有する会 (ACT) 様

オリジナルマスク協賛

- SBIホールディングス株式会社 様

バナー広告協賛

- 中外製薬株式会社 様
- アストラゼネカ株式会社 様
- MSD株式会社 様
- 武田薬品工業株式会社 様
- ファイザー株式会社 様
- ブリistol・マイヤーズスクイブ株式会社 様
- ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社 様



2023ワールドキャンサーデー特設サイト

特設サイトURL <https://www.worldcancerday.jp/>



QRコード

ライトアップ ザ ワールド
—未来に光を繋ぐ—

【北海道】あさひかわ街あかり イルミネーション	【埼玉】埼玉県立がんセンター	【愛知】中部電力 MIRAI TOWER
【宮城】仙台スカイキャンドル	【東京】東京ビッグサイト	【奈良】世界遺産 薬師寺
【新潟】新潟日報メディアシップ	【東京】佐々木研究所	【島根】さんいん中央テレビ鉄塔
【埼玉】防災地下神殿 (首都圏外郭放水路)	【神奈川】大船観音	【福岡】福岡市赤煉瓦文化館
	【富山】世界遺産 相倉合掌造り集落	【鹿児島】相良病院
	【岐阜】岐阜市役所	

ワールド キャンサー デー

ワールド キャンサー デー セッション

Close the care gap(がん医療のギャップを埋めよう)

① UICC日本委員会主催セッション

タイトル「がん患者が医師と治療選択を共有するためには ～shared decision making 2023～」

主 催：UICC 日本委員会

協 賛：一般社団法人がん医療の今を共有する会 (ACT)

男性の3人に2人、女性の2人に1人ががんになる現代の日本にあっても、がんと診断されてうろたえない人はほとんどいません。がんと診断された患者が、医師と治療選択を共有し、医療者の支えのもとに納得して治療に向き合えるにはどうしたらいいのか。講演とディスカッションを実施した。



座長：垣添 忠生
UICC日本委員会幹事
日本対がん協会会長
国立がん研究センター名誉総長
(公財) 医用原子力技術研究振興財団理事長



演者：大西 洋
山梨大学医学部放射線医学講座教授



② UICC日本委員会メンバー組織主催セッション

Close the care gap(がん医療のギャップを埋める)
https://www.worldcancerday.jp/page_session_mnbr_2023.html

① 愛知県がんセンター

「がんゲノム医療とは？～新時代のがん診療へ」
山本 一仁 (愛知県がんセンター病院長)
熊澤 一樹 (愛知県がんセンターゲノム医療センターがんゲノム医療室・乳腺科医長)



② 埼玉県立がんセンター

「口腔癌の診断・治療と検診のすすめ」
八木原一博 (埼玉県立がんセンター歯科口腔外科科長)
岡田 茂治 (埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授)
炭野 淳 (埼玉県立がんセンター歯科口腔外科医長)
柳下 寿郎 (一般社団法人口腔がん撲滅委員会代表理事)



③ 埼玉県立がんセンター

「小児科医と考える 高校生のがん患者さんの支援～教育の支援～」
川村眞智子 (埼玉県立がんセンター臨床検査科・血液内科)



④ 佐々木研究所

「UICCと佐々木研究所」
佐々木 敬 (公益財団法人佐々木研究所附属佐々木研究所理事長)
梶村 春彦 (公益財団法人佐々木研究所附属佐々木研究所所長)
※公益財団法人佐々木研究所は140年の歴史を持ち、附属杏雲堂病院は神田の街の医療にかかわり、附属佐々木研究所は1966年本邦での世界癌会議では歴代所長佐々木隆興、吉田富三博士がホストをつとめております。この分野の国際的貢献に引き続き寄与していきたい所存です。
<https://www.sasaki-institute.org/message/>



⑤ 新潟県立がんセンター新潟病院

「豪雪中山間地のへき地中核病院と政令都市のがん診療連携拠点病院が繋がる！」
～遠隔病理診断で拡がる良質ながん診療～
川崎 隆 (新潟県立がんセンター新潟病院病理部/病理診断科研究部長)
佐藤 信昭 (新潟県立がんセンター新潟病院院長)
清崎 浩一 (新潟県立十日町病院副院長)
吉嶺 文俊 (新潟県立十日町病院院長)
※豪雪地にある十日町病院と新潟市にあるがんセンター新潟病院をネットワークで繋ぎ、バーチャルスライドを用いた遠隔病理診断を行う取り組みを紹介



⑥ 独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター

「チームで取り組むAYA世代のがん診療」
園田 顕三 (独立行政法人国立病院機構九州がんセンター婦人科医師)
白石 恵子 (独立行政法人国立病院機構九州がんセンターサイコロジ科心理療法師)
野口 磨依子 (独立行政法人国立病院機構九州がんセンター小児・思春期腫瘍科医師)
松尾 由佳 (独立行政法人国立病院機構九州がんセンターがん相談支援センター医療ソーシャルワーカー)
松谷 奈央 (独立行政法人国立病院機構九州がんセンターがん相談支援センターがん看護専門看護師)



※九州がんセンターには、治療だけでなく包括的 (精神面・経済面・栄養・体力・遺伝・妊娠など生活全般にわたって) に患者・家族を支援する体制があり、多くのチームが活動しています。その中にAYA世代・生殖機能温存支援チームがあります。AYAチームは多職種で構成されており、思春期・若年成人の患者・家族ががん罹患したことで戸惑っていることを、担当診療科医師や看護師と協力して、全般的にお手伝いしています。

⑦ 東札幌病院

「これからのアピアランスケア」
大村 東生 (ピンクリボン in SAPPORO 代表 / 東札幌病院プレストケアセンター長)
堺 なおこ (ピンクリボン in SAPPORO)
大谷真奈美 (札幌医科大学附属病院がん化学療法看護認定看護師)
川村 舞 (札幌医科大学アイン・ニトリ緩和医療学・支持療法学講座臨床心理士)
※アピアランスとは外見のこと。



国立がん研究センター中央病院が、がん患者さんの外見の変化によるさまざまな苦痛に着目し、その支援を「アピアランスケア」と命名しました。皮膚科や形成外科と連動したり、ウィッグや化粧を使った外見のケアの他、心理学的な手法など、様々な方法を用いて患者さんの外見に関わるつらさを軽くすることを目指しています。しかし、必ずしも治療前と同じ姿に戻らなくてはいけないということではありません。治療前と全く同じ姿でなくても、周りの人のことが気にならなくなったり、自分らしさを実感できる姿であればよいのです。ウィッグや化粧を使わなくても、ちょっとしたきっかけで、安心できることもあります。国もアピアランスケアの必要性を深くとらえ、がん対策基本法の「第3期がん対策推進基本計画」にアピアランスケアの文言が盛り込まれています。現在、がん領域を中心に注目があつまっています。ピンクリボン in SAPPOROは2006年より乳がん検診への意識を高め検診の必要性を訴えかけていくとともに、患者・医療関係者・市民の交流の場づくりを目指して様々な活動を行っています。

⑧ 岐阜大学医学部附属病院

「ワールドキャンサーデー2023 岐阜大学医学部附属病院セッション-Close the Care Gap-」
吉田 和弘 (岐阜大学学長)
松橋 延壽 (岐阜大学大学院医学系研究科外科学講座/消化器外科・小児科外科学分野)
二村 学 (岐阜大学医学部附属病院乳腺外科)
村瀬 紗姫 (岐阜大学医学部附属病院産婦人科)
宮崎 龍彦 (岐阜大学医学部附属病院病理部)
岩下 拓司 (岐阜大学医学部附属病院第1内科)
牧山 明資 (岐阜大学医学部附属病院がんセンター)



※今年もUICCワールドキャンサーデーがやってきます。岐阜大学病院においては、吉田和弘学長の号令のもと、例年通り点灯式に参加し、岐阜市役所市民交流スペースにパブリックビューイング会場を設えます。今年は、この会の趣旨に賛同頂いた岐阜市民病院にも共催のかたちでご参加いただき、Close the Care Gapのテーマに沿って、地方都市におけるがん診療の挑戦、試みについて会場でポスター展示を行うとともにオンデマンドビデオを視聴いただけるようにいたします。多くの皆様のご参加を期待しております。

⑨ アジアがんフォーラム

「アジアがんUHCの実現を目指して」
河原 ノリエ (一般社団法人アジアがんフォーラム代表理事 / 東京大学東洋文化研究所特任准教授)
岩崎 甫 (一般社団法人アジアがんフォーラム理事 / 山梨大学副学長 AMEDプログラムディレクター)
坂野 哲平 (一般社団法人アジアがんフォーラム理事 / 株式会社アルム代表取締役社長)
大割 慶一 (一般社団法人アジアがんフォーラム理事 / KPMGヘルスケアジャパン株式会社代表取締役社長)



※アジアがんフォーラムは、アジアのがん医療のUHC実現に向けた政策提言活動を、東京大学の学際研究を基盤にして続けています。アジアの課題は日本の地方の課題とつながる時代となりました。私たちは、ヒューマンとデジタルの融合で、社会をよりよくする取り組みを進めていきたいと考えています。

事前告知

- ・UICC日本委員会より、加盟メンバー組織へ告知
- ・47都道府県がん対策課にイベント案内ファクス送信
- ・厚労省記者クラブ、全国メディア、PRタイムスにリリース配布
- ・全国の患者会に、メール・ファクス・郵送等でご案内・チラシを送付
- ・ライトアップ地域のメディアに、リリースとマスクを送付（マスクキャンペーンと運動）
- ・全国427のがん診療連携拠点病院相談支援センターに、チラシとマスクを送付（マスクキャンペーンと運動）



English

News & Topics

UICC

- UICC とは?
- UICC のヴィジョンとミッション
- 世界対がん宣言
- UICCの具体的な活動内容
- UICC 本部の住所
- リンク

UICC 日本委員会

- UICC 日本委員会とは
- メンバー組織
- 委員会と責任者
- UICC 日本委員会の活動内容
- UICC 日本委員会の歴史

2023年

2023.1.19

2023年2月4日ワールドキャンサーデーイベントのWeb公

UICC日本委員会HP



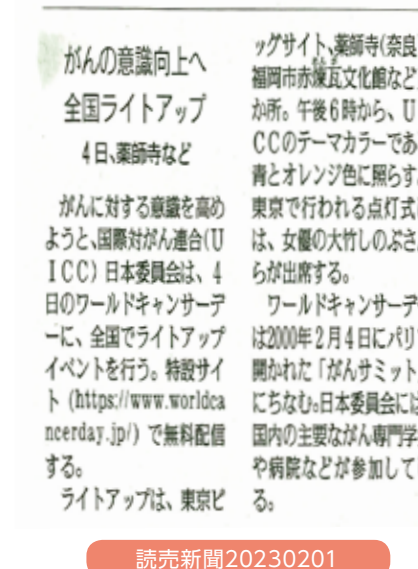
送付したチラシとマスク



国立がん研究センターHP



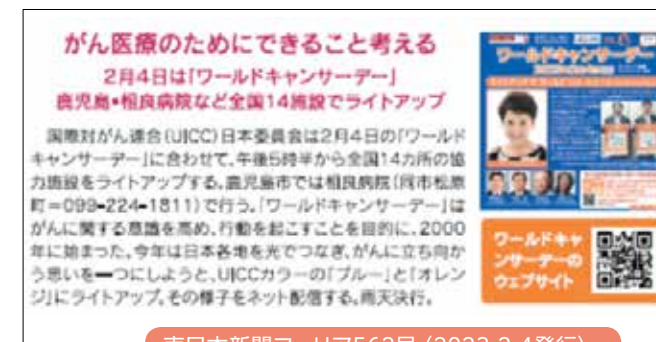
九州がんセンターHP



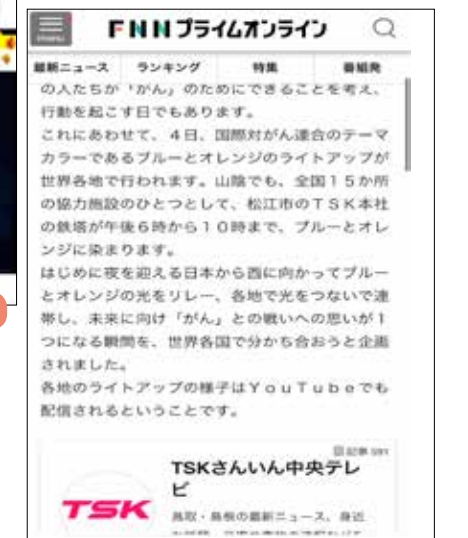
読売新聞20230201



TSKさんいん中央テレビ20230203



南日本新聞フェリア562号 (2023.2.4発行)



乳がん総合情報サイト

ポートや乳がんに関する情報はこちら

相互リンクサイト



がん療養生活情報室 サイト
(<https://ganryoyo.jp/>)



認定NPO法人乳房健康研究会
ピンクリボンアドバイザー専用サイト
(<https://breastcare.jp/event274/>)



PRタイムズ (2023年1月26日) 掲載



東京ビッグサイト公式Twitter



情報誌LEAP
(<https://leapleap.jp/info/8992/>)



保健指導リソースガイド
(tokuteikenshin-hokensidou.jp)



あさひかわ街あかりリイルミネーション
(<https://machiakari.atca.jp/>)



RBB TODAY ブロードバンド情報サイト



学校保健ポータルサイト



BIGLOBEニュース

掲載・報道



女優・大竹しのぶ（65）が4日、東京都内で行われた「ワールドキャンサーデー ライトアップ点灯式」に出席した。

さらに「父を（自分が）20歳のときにがんで亡くし、最初の夫を30歳で亡くした」と肉親が相次いでがんで亡くなったことを明かし、がんになって悲しむだけではなく受け入れることの重要性を指摘。そのためには「いい治療やいい先生との出会いが大切なので、その状況をみんなで力を合わせて作っていかれたら」と語った。

そして、がんとの向き合い方について、「治ると信じて、幸せになると信じて、いい人生だったと思う生き方をしてほしい」と述べた。

ワールドキャンサーデーは、世界中の人ががん対策のために行動する日。この日の夜、世界各地の施設がブルーとオレンジでライトアップされ、日本では東京ビッグサイト（東京）や世界遺産の薬師寺（奈良）など15カ所で行われた。

大竹は「先日、息子の友人にがんが見つかった。小さながんで、幸運中の幸運だった。こうやって幸運をつかめる人はいけれど、そうでない人もたくさんいるので、意識してがんを考えるのは、大事なことなんだと思う」と身近に起きた出来事から教訓を得たことを強調。



大竹しのぶ、家族のがん闘病を回顧「幸せになれると信じ、いい人生だと思える生き方を」

2023年2月4日 18時51分 スポーツ報知

女優・大竹しのぶが4日、東京・がん研究会有明病院の吉田富三記念講堂で「ワールドキャンサーデーライトアップ点灯式」に出席した。

世界中の人々が、がんのためにできることを考えて行動を起こすため、全国15カ所をライトアップするイベント。この日午後6時に、東京ビッグサイトや、世界文化遺産に登録されている奈良・薬師寺などがブルーとオレンジ色に照らされた。

大竹は、ライトアップの色にちなみ、ブルーとオレンジを基調とした帯締めと、白色の着物姿で登壇。世界中にイベントの様子が配信されていることから「特別な日ということ、普段あまり着ないんですけど、着させていただきました」と笑顔を見せた。

昨年放送のフジ系ドラマ「PICU 小児集中治療室」で、脾臓（すいぞう）がんを患う役柄を演じた。「若い頃は、病気が発覚する役を演じる時に生じる感情は、悲しみとカゲリだった。でも、今回のドラマでは、がんを受け入れたことによって生まれる人生に対する感謝を教えられました」と回顧。「でも、そう感じられるようになるには、まず自分に合った治療や先生との出会いが大切。その状況をみんなで力を合わせて作って行けたらいいですね」と願いを語った。

大竹は、イベントの最後に「がん患者の方もそのご家族の方も、一日一日いっていることをいい方向に向けていって、幸せになれると信じて、いい人生だったと思う生き方をしていって欲しいです。そして、医療従事者の方もコロナ禍で治療に当たるのはどれだけ大変だったことか。本当に心から感謝します」と感謝の言葉を重ねていた。



女優・大竹しのぶ「実は先日、息子の友人にがんが見つかった」がん啓発の重要性語る

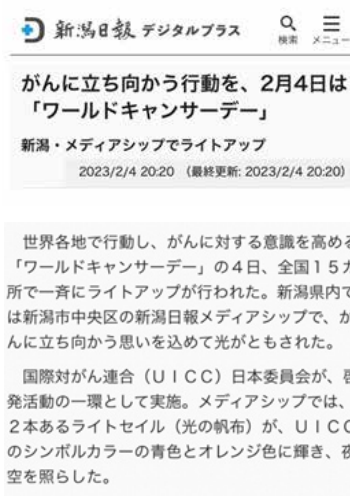
画面の向こうのライトアップを見届けた大竹は「実は先日、息子（二千翔さん、38歳）の友人にがんが見つかった」と告白。幸い、小さながんだったといい「幸運中の幸運。幸運をつかめる人はいいが、そうじゃない人もたくさんいる。がんについて考えるのは、大事なことなんだ」とがん啓発の重要性を口にした。

自身は2016年8月放送されたテレビで、子宮頸がんの手術を受けたことを明かしていた。初期のがんで1992年末に手術したとされる。

ると信じて、幸せになると信じて、いい人生だったと思う生き方をしてほしい」と述べた。

父親と最初の夫をがんで亡くした大竹。悲しい死別から30年以上がたち、息子の友人ががんにかかったことを知り「《自身》ががんへの意識が薄れているんだなと思いました」と反省。家族にも強く検査を勧めているといい、自身も年に1度がん検診を受けているという。

昨年放送のフジテレビ系ドラマ「PICU 小児集中治療室」ではがん患者役を演じた。「がんになると苦しいこともたくさんあるが、同じぐらい幸せなことに気づかせてくれるのかなと、ドラマを通して教えてもらいました」とし「それには自分にあった治療や先生との出会いが大切。その状況を力を合わせて作っていかれたらいいなと思います」と話していた。



がんに立ち向かう行動を、2月4日は「ワールドキャンサーデー」

新潟・メディアシップでライトアップ

2023/2/4 20:20 (最終更新: 2023/2/4 20:20)

世界各地で行動し、がんに対する意識を高める「ワールドキャンサーデー」の4日、全国15カ所で一斉にライトアップが行われた。新潟県内では新潟市中央区の新潟日報メディアシップで、がんに立ち向かう思いを込めて光がともされた。

国際対がん連合（UICC）日本委員会が、啓発活動の一環として実施。メディアシップでは、2本あるライトセイル（光の帆布）が、UICCのシンボルカラーの青色とオレンジ色に輝き、夜空を照らした。

近くを歩いていた新潟市の女性（28）は「母をがんで亡くし、身近な病気とらえていて。健康に気をつけたい」と話した。

○「世界各地で行動し、がんに対する意識を高める「ワールドキャンサーデー」の4日、全国15カ所で一斉にライトアップが行われた。県内では新潟市中央区の新潟日報メディアシップで、がんに立ち向かう思いを込めて光がともされた」

写真

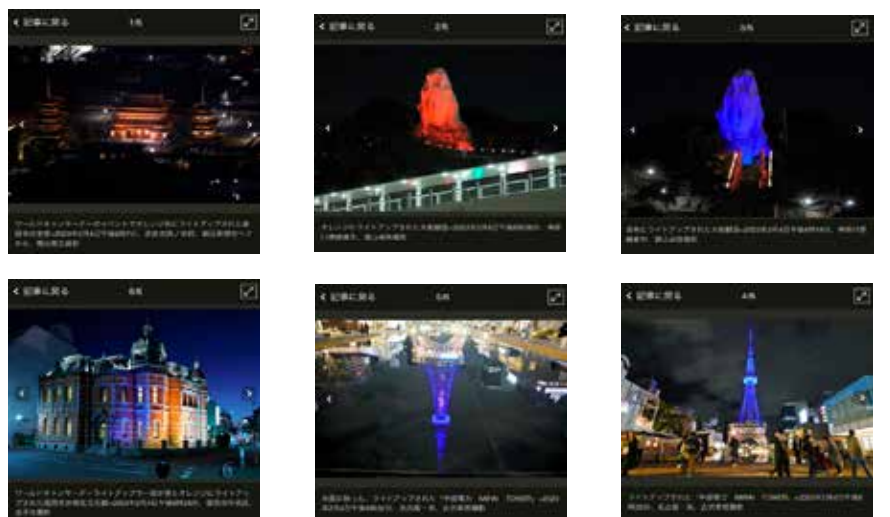
○「国際対がん連合（UICC）日本委員会が、啓発活動の一環として実施。メディアシップでは、2本あるライトセイル（光の帆布）が、UICCのシンボルカラーの青色とオレンジ色に輝き、夜空を照らした。○近くを歩いていた新潟市の女性（28）は「母をがんで亡くし、身近な病気とらえていて。健康に気をつけたい」と話した。」



世界対がんデーの4日、がんの知識を増やし、行動を起こすため、各地の15施設がライトアップされた。世界170以上の国と地域に加盟組織があり、国内でも30団体が加わる国際対がん連合（UICC）の日本委員会が主催した。午後6時に、東京都江東区の東京ビッグサイトや神奈川県鎌倉市の大船観音、名古屋テレビ塔（中部電力 MIRAI TOWER）、奈良市の薬師寺、福岡市の赤煉瓦（あかれんが）文化館などが、UICCのテーマカラーの青とオレンジで照らされた。

テーマは昨年引き続き「Close the care gap（がん医療のギャップをなくそう）」。

点灯式では医師や市長らがこの目標への思いを語った。また俳優の大竹しのぶも、自身ががんを経験し、父親や最初の夫をがんで亡くしたことに触れ、「お医者様は特別な存在で精神的にも助けていただいた。良いお医者さんを育成してほしいし、感謝の気持ちを忘れちゃいけないと思う」と話した。（上野朗）





20230210北海道新聞社 (旭川・上川版)



デイリースポーツ 2023年2月4日配信



北日本新聞 (富山掲載) 2023年2月5日配信



読売新聞オンライン (岐阜掲載) 2023年2月5日配信



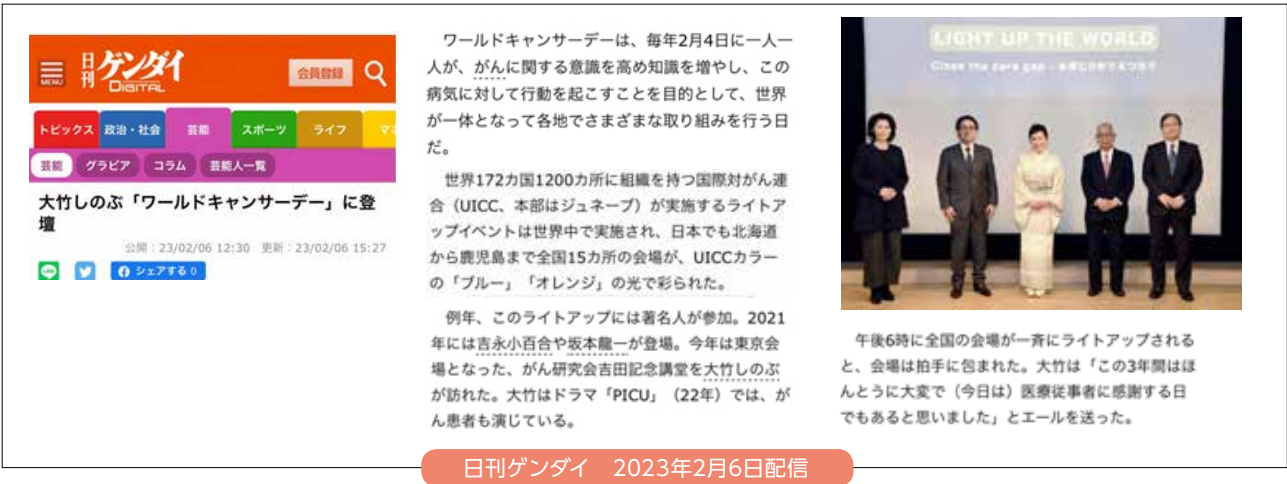
東京中日スポーツ2023年2月4日配信



テレ朝news 2023年2月6日配信



中日新聞 (富山掲載) 2023年2月4日配信



日刊ゲンダイ 2023年2月6日配信



信
ん進行
向け考
るワイ
ルドキ
ヤンサ
ーデー
(WC
D)の
2月4
日、日
本委員

会は全国15カ所で一斉にライ
トアップを行い、点灯式の模
様をオンラインで配信した。
東京の配信会場ではがん研
究やがん医療の団体の代表に
加え、女優の大竹しのぶさん
がゲストで出演し、がんにつ
いて語り合った。司会進行は、
UICC日本委員会広報委員
長の河原ノリエ東京大東洋研
究所特任准教授(新潟市庄川
町出身)・写真左が務めた。
大竹さんは、家族や友人を

「がんばって対峙することによって人生での感謝や、幸せについで気づくことを知った。良い治療や先生との出会いが大切。良い人生だったと思うように生きてほしい」と語った。

当日の模様や、最先端のがん治療、格差を無くす取り組みなどについてのセッションの内容も、WCDのホームページで動画を公開している。

雑誌「富山県人」令和5年3月号



医療情報誌「JMS」2023年3月号



2月4日はワールドキャンサードーです。2000年にバリで開催された「がんサミット」から始まった取り組みで、世界中でがんに関する知識を深め、この病気に対して何ができるのかを考える日です。日本でも全国15か所でライトアップ点灯式などのイベントが行われました。

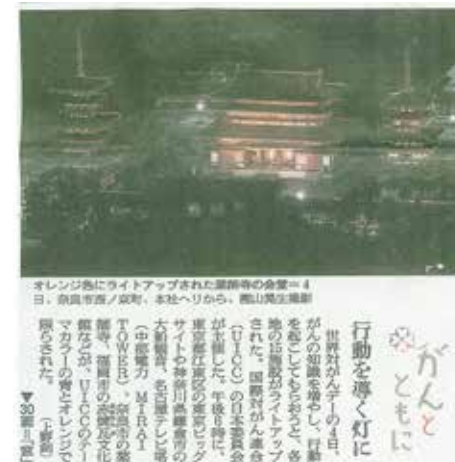
【写真を見る】「がん検診」に異常 早期がんの発見が減り「すでに転移」進行がんが増えている ワールドキャンサーデー-2月4日に考える 富山

このうち富山県南砺市の世界遺産相倉合掌造り集落でもライトアップが行われ、伝統の合掌家屋が国際対がん連合（UICC）のテーマカラーであるブルーとオレンジの光に染まりました。

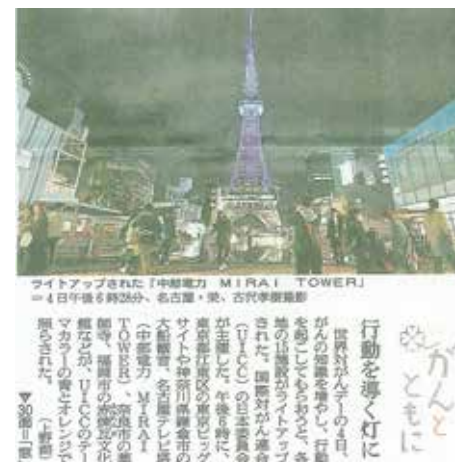
20230204チューリップテレビ



20230206南日本新聞社（鹿児島掲載）



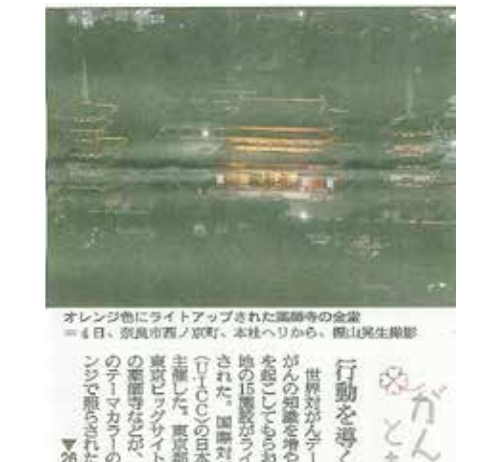
20230205朝日新聞



20230205朝日新聞 (名古屋掲載)



20230205朝日新聞（西部本社掲載）



20230205朝日新聞（大阪本社掲載）



NHKニュース645 (PM) 2023年2月4日放送



20220205西日本新聞（福岡掲載）

マスク キャンペーン

今回、初の試みとしてマスク協賛を募り、ワールドキャンサーデーオリジナルマスクの配布によるキャンペーン展開を行いました。

ワールドキャンサーデーに賛同する医療・研究機関や企業などにキャンペーンマスクを着用してもらい、「ワールドキャンサーデー」を通じて、がん対策に関する世論形成と機運醸成を図ることとしました。本年度は、SBI ホールディングス社にご協力いただきました。

【ワールドキャンサーデーオリジナルマスク】

3層構造洗える不織布マスク（PFE,BFE,VFE）
99.9% カットフィルター使用



洗える三層不織布マスク
～洗濯ができ、環境にやさしい～
10回程度なら繰り返し洗濯しても
保護性、型を保つエコなマスクです。
※洗濯の際は、中性洗剤で30度以下の水を使って優しく
洗濯してください。

マスク包装に協賛企業ロゴシール
(SBI ホールディングス社)

ライトアップ施設とその地域メディア、全国 427 のがん診療連携拠点病院
相談支援センターにチラシとマスクを送付

国立がん研究センターの皆様



日本対がん協会の皆様



埼玉県立がんセンターの皆様



九州がんセンターの皆様



ワールドキャンサーデーに参加して

旭川街あかり実行委員会 事務局

有馬 準

旭川街あかり実行委員会・事務局の有馬と申します。
北海道地域の参加者が無いとのことで、今回初参加させていただきました。

元々「あさひかわ街あかりイルミネーション」は、疲弊した地方都市旭川の中心市街地に灯りをともし、市民や行き交う観光客に元気を与える事業として進めているものです。平成12年にそれまで市内地域、通りごとにバラバラであった実行委員会を統合してスタートしましたが、この間様々な事象があり、バブル崩壊から続く失われた20年、リーマンショック、昨今だと新型コロナウイルスの感染事象など、活気を失った街に灯りをともし、市民や行き交う内外の人々に元気を与えてきました。またここ2年は、旭川の名所「常盤ロータリー」にブルーライトを灯し、医療や介護で奮闘する方々への感謝とエールを送る意味も込めて点灯してきました。

今回のお話は、同じ考え方があると理解しており、がん患者の皆さんや、医療従事者の皆様へのエールを送る皆さまの試みに賛同し受けさせていただいた次第です。

引き続きご協力させていただきたく、今後ともよろしく願いいたします。



遠隔術中迅速病理診断がスタートしました！

新潟県立がんセンター新潟病院 川崎 隆、佐藤 信昭
新潟県立十日町病院 清崎 浩一、吉嶺 文俊

2023年3月某日、十日町病院とがんセンター新潟病院の間で遠隔術中迅速病理診断がスタートしました。地元でがん治療を希望する患者さんに良質な医療を提供したいという清崎先生の熱意によって実現しました。これに先立ち2月のワールドキャンサードー2023 “Close the care gap” では、「豪雪中山間地のへき地中核病院と政令都市のがん診療連携拠点病院が繋がる！～遠隔病理診断で拡がる良質ながん診療～」と題してミニシンポジウムをお届けしました(図1)。十日町病院とがんセンター新潟病院をネットワークで繋ぎ、距離のギャップを埋める遠隔病理診断をテーマにしました。当初構成は、清崎先生の「がん治療の地域格差を埋める試み」と私の「遠隔術中迅速病理診断について」の講演だけで、時間にしてわずか8分でした。さすがにこれではということからミニシンポジウムを企画しました。1月27日厳冬の朝、ぶっつけ本番の収録を行いました。構成は佐藤先生の挨拶

とディスカッションを加えて、進行は吉嶺先生にお願いしました。最終的にタイトル負けしない22分の動画となりました。

十日町病院は新潟県南部にある275床の地域中核病院で、十日町市、津南町、長野県栄村が診療圏です(図2)。上越新幹線や関越自動車道は山一つ隔てた向こうを走っており、交通の便はよくありません。近年、がん医療は専門性が増し集約化が進んでいますが、地元で治療を希望される方もいます。がんの手術では、手術中に組織を検査して方針を決める場合があります。この検査を術中迅速病理診断と言い、限られた時間内に腫瘍が良性か悪性かの判断や病変部の取り残しがないかを顕微鏡で調べます(図3)。十日町病院では病理医がいないため、手術中の判断が必要な場合には体制が整った施設を紹介しており、患者さんの希望に添えない現状がありました。



図1



図2

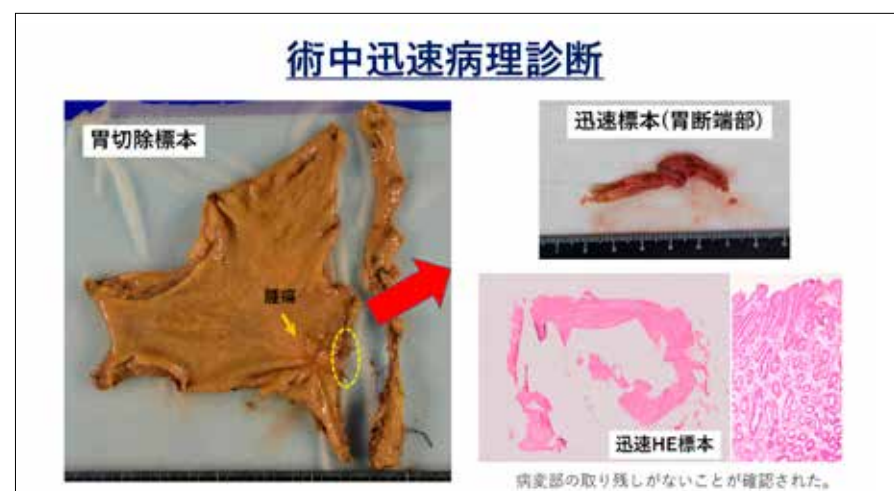


図3

地域の病院において直接組織の診断ができない場合、オンライン画像を用いて代わりに専門施設で診断する方法があります。この方法を遠隔病理診断と言い、バーチャルスライドを用いることで病理医が遠隔地にいても、ネットワーク経由で術中迅速診断を行えます(図4)。バーチャルスライドは、組織標本をスキャンして作成された高解像度のデジタルデータです。パソコンの画面上で拡大や縮小ができ、顕微鏡と同じように組織を観察することができます。2年越しで十日町病院とがんセンター新潟病院との間にこのシステムを構築しました(図5)。

この3月に遠隔術中迅速病理診断がスタートしました。電話で迅速の結果報告をした際、清崎先生の声は弾んでおり遠隔病理診断への期待の大きさが伝わってきました。まずはシステム構築に尽力いただいた方々に感謝致します。そして地元でがん治療を希望される方の気持ちに添えるようこのシステムを順調に稼働させて行きたいと思います。

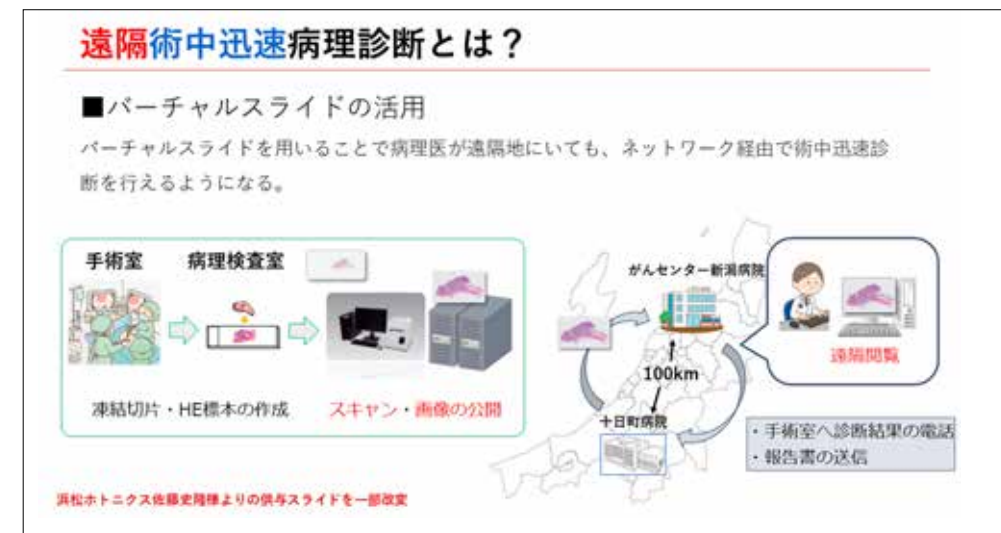


図4



図5

2023 ワールドキャンサーデーに参加して

埼玉県立がんセンター 病理診断科 科長・診療部長
神田 浩明

埼玉県立がんセンターは2022年からワールドキャンサーデーのライトアップイベントとオンデマンドセッションに参加しています。2023年、ライトアップは埼玉がんセンターと防災地下神殿として観光名所にもなっている春日部市の首都圏外郭放水路の2か所で行いました。影山幸雄病院長から点灯式にメッセージもいただきました。埼玉がんセンターのライトアップは前病院長の横田治重先生がライトアップ機材を寄付してくださってできるようになったものです。当日は横田先生も駆けつけくださいました。好天に恵まれ、



ライトアップされた埼玉県立がんセンターと撮影チーム。
中央は機材をご寄付いただいた横田治重前病院長。

きれいに配信することができました。2月、関東は大雨の危険性が低い時期で、現在まで2月に防災地下神殿が本来の目的で使用されたことはないそうですが、期待通り、大雨は降らず、防災地下神殿でもライトアップができました。ただ、地下のため、電波状況がよくありませんでしたが、下見の時に状況が把握できていたために事なきを得ました。全面協力いただいた施設の皆様に心より御礼を申し上げます。

オンデマンドセッションは埼玉がんセンターから2つ発表させていただきました。口腔外科チームによる、「口腔癌の診断・治療と検診のすすめ」と臨床検査科・科長の川村眞智子先生による「小児科医と考える 高校生のがん患者さんの支援～教育の支援」です。口腔外科チームは幅広い内容をコンパクトにまとめてくださいました。昨年、AYA世代のがんを取り上げることが予定していましたが、コロナで間に合わなくなっていました。今年、川村先生はその分も頑張ってくださいました。諸先生には締め切りまで時間がない中でセッションを用意してくださり、感謝いたします。ともに力作ですので、多くの方のご視聴を願っています。

参加2年目でいろいろなことに慣れてきました。来年以降、より一層充実したイベントにしていきたいと思っています。



ライトアップされた防災地下神殿と撮影チーム。
右から2人目はオンデマンドセッションでも活躍された臨床検査科・科長、川村眞智子先生。

2023年ワールドキャンサーデーに参加して

法相宗 大本山 薬師寺 執事
安田 奨基

はじめに、UICC（国際対がん連合）をはじめとし、がんに対する教育や啓発行動をされている皆様に、心から敬意を表するとともに深く感謝を申し上げます。

この度、2月4日のワールドキャンサーデー、ライトアップザワールドについて、以前からご縁がある元大阪府立母子保健総合医療センター副院長の末原則幸氏ご夫人から、境内でのライトアップのご依頼を頂戴致しました。日頃から薬師寺では午後10時まで昼光色で東塔、西塔のライトアップを行っており、平成25年（2014）に奈良県糖尿病協会などの呼びかけで11月14日の世界糖尿病デーで西塔をブルーライトアップした実績もございます。ワールドキャンサーデーという特別な日に、全国を光でつなぐという意義に賛同し、少しでも啓発活動のお役に立てればという気持ちで参加させていただくことに致しました。

薬師寺は病氣平癒を祈る寺でございます。そこで今回は普段ライトアップしている塔ではなく、本尊の薬師如来を祀る金堂を照らすことに致しました。オンラインでの中継があることから、通常、夜間は閉めている正面扉を開き、仏さまのお姿を拝していただけるよう照明を工夫致しました。

当日は突如としてヘリコプターが飛来し、しばらく薬師寺上空を旋回して帰っていきました。何だったのかと思っていたところ、翌日の朝日新聞朝刊1面に、ライトアップされた薬師寺の航空写真がカラーで掲載されていました。それを拝見し、UICC日本委員会関係者さまがご尽力されたことで、ワールドキャンサーデーが広く世

間に広まっていることを目の当たりにした次第です。只々圧倒されるばかりでした。

今年は薬師寺にとって節目の年にございます。12年間かけて行われた東塔の修復を終えたことを祝い、落慶法要を行います。堂宇がそろった伽藍で、お薬師さまに、世界でがん治療が平等に施され、罹患者やご家族など多くの方の苦難が取り除かれることを改めて強くお祈りして参りたいと思います。今後また、機会があればご協力させていただきたいと願っております。

結びに、薬師寺のライトアップ企画を陰でお支え頂いた朝日エルの中村和代さまに、この場をお借りし御礼申し上げます。合掌



薬師寺金堂ライトアップ



UICCワールドキャンサーデー 2023 記念点灯式 ～岐阜より～

岐阜大学医学部附属病院
宮崎 龍彦

Close the care gap. -未来に光をつなぐ- に少しでも寄与すべく、岐阜大学では吉田和弘学長の号令のもと、例年通りUICCワールドキャンサーデー記念点灯式に参加しました。岐阜市役所市民交流スペースにパブリックビューイング会場を設えて点灯式に臨みました。本年からは、この会の趣旨に賛同頂いた岐阜市民病院にも共催のかたちでご参加いただき、Close the Care Gapのテーマに沿って、地方都市におけるがん診療の挑戦、試みについて会場でポスター展示を行うとともにオンデマンドビデオを放映し、点灯式の時間には生中継に切り替えました。今年は、多くの市民の皆様のご参加をいただき、盛会となりました。記念点灯式では、昨年に引き続き岐阜市役所の新庁舎をUICCカラーであるブルーでライトアップしました。点灯カウントダウン直前まで、建物上部にあるホールの室内照明が明々となっており、画像をどうしようと途方に暮れていたところ、しっかりとカウントダウンの数分前に消灯していただき、綺麗な

ライトアップの映像を届けることが出来ました。また来年も参加者を増やして大々的にカウントダウンを行いたいと思います。



Close the Care Gap! 都会と地方のがん医療格差をなくそう

全国の皆様、富山経済同友会代表幹事の牧田和樹です。富山県ではワールドキャンサーライトアップを、今年も世界遺産相倉合掌集落にて実施しています。

さて、これまでのがん検診での早期発見に重きをおいてきましたが、昨年11月に富山県で開催されたアジアがんフォーラムのローカルキャンサーデーに参加し、デジタル革命によって診断や治療において都会と地方の医療格差をなくすことができる時代になったことを知りました。大変素晴らしいことです。是非、高い志をもつ医療従事者や関係企業が先頭にたち、医療アクセス環境にイノベーションを起こしていただきたく大いに期待し、お願いするところです。



富山経済同友会代表幹事
株式会社牧田組代表取締役社長
牧田 和樹

World Cancer Day 2023 に参加して

国立病院機構九州がんセンター 院長
藤 也寸志

九州がんセンターは、2016年にUICC日本委員会の仲間にいれていただきました。当院は昭和47年に九州で唯一のがん専門診療・研究施設として設立され、初代院長の「病む人の気持を」、そして2代院長の「家族の気持を」を基本理念として発展してきました。この二つの言葉は、当院の歴史の中で、現在に至るまで確実に継承されています。私は、2015年に第8代院長に就任しましたが、2016年の全面建替えの新病院のオープンに際して、『患者にも家族にもスタッフにも優しい日本をリードするがん専門病院』になるというビジョンを掲げて活動しています。“地域に根ざしたがんセンター”であるとともに、“日本へ、そして世界に目を向けたがんセンター”になることを目指しています。それが、九州がんセンターの使命でもあると考えています。

九州がんセンターは、2020年からWorld Cancer Dayのイベントに参加しています。今年、従来の博多ポートタワーに代わって、福岡市の中心にある「福岡市赤煉瓦文化館」をライトアップしました。「Close



the Care Gap (がん医療のギャップを埋めよう!）」というキャンペーンテーマのもと、世界中のがん治療における不平等を理解し皆で共有する、さらに志を同じくする人々と声を合わせて行動するために、九州がんセンターの院内には、World Cancer Dayのポスターを沢山掲示して、患者さんやご家族にもお知らせしました。また、多くのスタッフが、World Cancer Dayのマスクを着けて活動してくれました。そして、今年の『高齢者のがん医療』に引き続いて、今年は『AYA世代のがんの課題と支援』についてのセッションをオンラインで発信しました。九州がんセンターのスタッフにとっても、目の前のがん患者さんやご家族をサポートすることに留まらない、がんの撲滅への新しい視点を持つ契機になっていると思います。

また、来年の“World Cancer Day 2024”にも参加させていただきます。九州がんセンターの所在地である福岡市は、アジアに目を向けて発展を続けています。九州がんセンターも、多くのアジアの国々やがん関連施設連との交流を推進して、アジアのがん診療と研究の拠点となり、アジアのUniversal Health Coverageの実現に向けて努力していきたいと思います。私たちががんの医療者と、がん患者さんやご家族、みんなで力を合わせて、「Close the Care Gap」を実現させましょう！
皆様のご指導を賜りますようお願い申し上げます。



ワールド キャンサーデーの日に願うこと

社会医療法人博愛会 相良病院 理事長
医療法人宮崎博愛会 さがら病院宮崎 理事長
相良 吉昭

人はみな色んな悲しみを背負っている。それは自分の病気とは限ってはならず、家族のことであったり仕事のことであったり、時には生きるの意味が分からなくなったりと、色んな悲しみを背負いながら生きている。

我々が取り組んでいる女性医療、特に乳がん診療においては、「いかに大切なものを守りながら人生を全うするか」は常に問われていることであり、そのためには患者が乳がんと正面から向き合えるためのスタッフの人財育成と、環境整備が必要となる。患者に科学的根拠に基づいた治療を提示するなら、それと対峙することのできる空間を構築することは、医療者側の責務である。

十分に育成されたスタッフと、適切な環境整備や患者支援プログラムが存在しない状況下での科学的根拠に基づく治療の提示は患者を混乱させ、時には残酷な行為となる。

患者が背負っている悲しみと向き合い、患者の大切なものを守りながらがん治療を行える環境を作りたい。

社会医療法人博愛会 相良病院
事業本部 総務部 広報室 室長
藤迫 正幸

相良病院では、今年初めてUICCワールドキャンサーデー「Close the Care Gap!」のイベントに参加させていただきました。

世界各地をライトアップするUICCのイベントと連動して、相良病院でもオレンジ色にライトアップを試みました。当日の午後6時は鹿児島市はまだ薄暮で、ライト点灯時はインパクトが弱かったのですが、一刻一刻と時間と共に浮かびあがる建物のライトアップはコントラストの美しい佇まいの時間でした。

UICCの目標である、「がん制圧を目指し共同して活動すること」を実現するためには、がんに関わる医療従事者一人ひとりが問題意識を持ち、一歩ずつ目標達成に向けて前進し続けることが求められると私

世界中の「がんと戦っている医療従事者や公的機関の皆さま」と「がんと正面から向き合っている体験者の方々」が一つになれたワールドキャンサーデー2023。遠隔で拝聴しながら、日本唯一の特定領域がん診療連携拠点病院である我々の使命として「離島僻地医療へのがん専門医師の派遣」や「がんの母親をもつ子どもへの支援」など「患者の生きる」を懸命に支えているスタッフ達を心から誇りに思っていた。



は考えます。さらに、「Close the Care Gap! (がん医療のギャップを埋めよう)」の推進に関しては、国民の方々の理解と協力が必須であり、そのためのわかりやすい広報活動・情報発信や啓発活動を行うことも、私たちの使命だと感じております。

コロナを境に今までの当たり前でできていたことが難しくなったこと、又逆に、これまで考えもしなかったことが可能になってきたことなど、数多くございます。

今回のような活動に参加できたことに感謝しまして、今後も様々な可能性に積極的に挑み、がん医療に携わる一員として患者様、チーム医療のスタッフと「共に在り、共に歩む」で従事して参ります。

アジアがんUHCの実現を目指して

一般社団法人アジアがんフォーラム 代表理事
東京大学東洋文化研究所 特任准教授

河原 ノリエ

アジアがんフォーラムは、アジアのがん医療のUHC実現にむけた政策提言活動を、東京大学の学際研究を基盤にして続けています。UICCはワールドキャンサーデーを3年間のテーマとして「Close the Care Gap! (がん医療のGAPを埋めよう)」をスタートさせており、今年はその2年目であり、当法人からは理事の3名(岩崎甫/山梨大学副学長 AMEDプログラムディレクター 坂野哲平/ 株式会社アルム代表取締役社長 大割慶一/ KPMGヘルスケアジャパン株式会社代表取締役社長)が登壇して、2022年11月に富山県で開催したがん医療の未来を考えるシンポジウム「LOCAL CANCER DAY 2022 TOYAMA-JAPAN-ASIA」の取り組みを中心に発表させていただきました。

これまで国民皆保険制度とがん医療の均てん化政策という言葉のイメージが強く、国内のがん医療のGAPという視点はあまりとりあげられてきませんでした。が、少子高齢化、人口減少、医療高騰により医療財政悪化など構造的な課題が逼迫しており、国際的・学際的に学び合いが必要となっています。我が国では、地方分権を基軸とした行政システムの組み換えが急速にすすみ、基礎自治体を基本とする地域社会が「自立」を強くせまられる中、平成の大合併は思った以上に未だに基礎自治体の内部に影を落とし行政の壁、病院同士の壁などもあり、セカンドオピニオンもままならないことも多いことが実情です。

アジアがんフォーラムは、これまでアジアのがん医療のUHCの在り方をアジアにフィールドを持ちながら取り組んできましたが、クローニーキャピタリズム(縁故主義経済)、個人より集団、宗教的信仰、地域社会



リラの木のいえでの地域活動

規範など、西欧的でないアジア社会の特性が、実は、日本のローカルな社会の中には、厳然と息づいていて、改めて気づかれています。医学研究は西欧的な普遍的価値観に支えられ発展してきたこともあり、私たちはつい、合理的判断をする人間像を前提として、その価値感に基盤を持つ社会を想定しがちですが、地方にはアジアの原風景が存在しているのです。

がんはひとが、これからどう生きたいかを問うてくる病であり、がんは鏡であるという故赤座英之先生の遺志を引き継ぎ、医療関係のみならず、様々なステークホルダーをアクティベーションするために、アジアがんフォーラムは「Cross-boundary Cancer Studies」による学び合いを推進していきたいと願っています。

ローカルキャンサーデー当日 TOYAMA宣言を説明する岩崎理事



デジタル導入を起点とした社会変容構想を説明する大割理事



マレーシアプロジェクトを説明する坂野理事

第27回 世界がん会議 (ジュネーブ開催) 報告

第27回World Cancer Congress (WCC) が2022年10月18日から20日まで、ジュネーブで開催された。コロナ禍で、第26回のオマーン・マスカットでの会議も中止となり、2018年の第25回マレーシア・クアラルンプールでの会議以来のリアル開催となった。

ジュネーブ開催は、2008年以来であったが、リアルとWEB両方をふくめ開催となり、120か国から、2,000人の参加者を集め、日本からも国立がん研究センターはじめいくつかの加盟組織からご参加いただいた。66のデジタルセッションで幅広い議論がなされ、対面で出会うネットワーキングということが重視され、スペース的にも工夫したたてつけになっていた。セッションは以下の6つの大きなテーマで仕切られていた。

①「予防・スクリーニング・早期発見」、②「がん研究の進歩」、③「医療制度と制作」、④「がん治療と緩和ケア」、⑤「タバコ規制」、⑥「がんとともに生きる」。

日本からはUICC-ARO提案で、アジアの放射線治療のUHCについての提案が通り、添付図のようなセッションがなされた。

また、様々なスポンサーに呼び掛けて実現したブースは25を数え、ブース会場となったグローバルビレッジ内では、いくつかのスポットライトステージとしてのミニ講演が行われ、対面での開催の醍醐味として参加者同士の交流が盛り上がっていた。

また、WHOとの協力で、「がん対策のための持続可能な資金調達」、「UHCにおけるがんケア」、「紛争や環境緊急事態におけるがんケア」、「Covid19後の世界における強固ながんヘルスケアシステムの構築」という、未来志向の政策対話がなされた。



WEDNESDAY | 19 OCT 15:10 TO 16:10

Lessons and Challenges for UHC for Radiotherapy in the Asian Region
Theme 2 – Cancer research & progress
Session organised by UICC-ARO (Union for International Cancer Control Asia Regional Office)

Chaired by: Hiroshi Ohnishi, Japanese Society for Radiation Oncology(JASTRO) (Japan)

Presentations:

1. Structural Challenges for Radiotherapy in Asia
Hiroshi Ohnishi, Japanese Society for Radiation Oncology(JASTRO) (Japan)
2. The Strange Case of the Failure of UHC for Radiotherapy in Japan
Ikuko Kase, Asia Cancer Forum(ACF) (Japan)
3. Radiotherapy in Indonesia
Soehartati Gondhowiardjo, National Cancer Control Committee (NCCC) (Indonesia)
4. Asian RWD and the Future of Radiotherapy
Jianping Cao, Soochow University (China)
5. Global Situation for Radiotherapy and Challenges
Mary Gospodarowicz, Princess Margaret Cancer Centre (Canada)

3



UICC 日本委員会加盟組織

愛知県がんセンター	(一社) アジアがんフォーラム	大阪国際がんセンター
神奈川県立がんセンター	がん・感染症センター都立駒込病院	(公財) がん研究会
(公財) がん研究振興財団	(公財) がん集学的治療研究財団	九州がんセンター
国立がん研究センター	埼玉県立がんセンター	(公財) 佐々木研究所
(公財) 札幌がんセミナー	静岡県立静岡がんセンター	(一社) 全国がん患者団体連合会
(公財) 高松宮妃癌研究基金	千葉県がんセンター	東京慈恵会医科大学
栃木県立がんセンター	新潟県立がんセンター	(一社) 日本癌学会
(一社) 日本癌治療学会	(公財) 日本対がん協会	(一社) 日本乳癌学会
(特非) 日本肺癌学会	(公社) 日本婦人科腫瘍学会	東札幌病院
(公財) 北海道対がん協会	三重大学医学部附属病院	宮城県がんセンター

賛助会員 協和キリン株式会社(山極一吉田国際奨学金)
(公社) 日本放射線腫瘍学会

UICC日本委員会 2023年役員

委員長	野田 哲生(がん研究会)	UICC-AsiaRegionalOffice (ARO)	野田 哲生(がん研究会)
幹事		UICC 本部	
総務	中釜 齊(国立がん研究センター)	Fellowship 委員	中釜 齊(国立がん研究センター)
学術	垣添 忠生(日本対がん協会)	TNM 委員	浅村 尚生(東京歯科大学)
財務	吉田 和弘(岐阜大学)	名誉会員	
ARO担当	野田 哲生(がん研究会)	青木 國雄(元愛知県がんセンター)	
予防・疫学領域担当	浜島 信之(名古屋大学)	富永 祐民(元愛知県がんセンター)	
事務局担当	大野 真司(がん研究会有明病院)	大島 明(元大阪府立成人病センター)	
監事	増井 徹(慶応大学医学部)	武藤徹一郎(がん研究会)	
	池田 徳彦(東京医科大学)	北川 知行(がん研究会)	
専門委員会委員長		田島 和雄(元愛知県がんセンター、三重大学)	
疫学予防委員会	浜島 信之(名古屋大学)	日本委員会事務局(がん研究会内)	
喫煙対策委員会	望月友美子(新町クリニック)	神田 浩明(研究:幹事会担当)	
患者支援委員会	土岐祐一郎(大阪大学医学部)	(埼玉県立がんセンター)	
TNM委員会	佐野 武(がん研究会有明病院)	関本 敏之(事務:委員長業務補佐)	
広報委員会	河原ノリエ(アジアがんフォーラム)		
小児がん委員会	中川原 章(佐賀国際重粒子線がん治療財団)		
対がん協会	石田 一郎(日本対がん協会)		

2024 年度の UICC 日本委員会総会は
7月27日(土) 12:00 ~ 14:30 経団連会館
(Web 開催の場合 13:00 ~ 予定)

UICCホームページ : www.uicc.org
UICC日本委員会ホームページ : www.jfcr.or.jp/UICC
UICC-AROホームページ : <http://uicc-aro.org/>